

FUKUOKA

Smart EAST 始動!!

— 世界経済フォーラム「トップ10の都市革新」と福岡・箱崎のチャレンジ —

FUKUOKA NEXT 都市革新フォーラム

開催報告書

開催概要

会議名称：FUKUOKA NEXT 都市革新フォーラム
～世界経済フォーラム「トップ10の都市革新」と福岡・箱崎のチャレンジ～

会 期：2016年11月11日（金）

会 場：福岡国際会議場5階 （〒812-0032 福岡市博多区石城町2-1）

主 催：FUKUOKA NEXT 箱崎まちづくりシンポジウム実行委員会
（福岡市、九州大学、九州大学共進化社会システム創成拠点、福岡地域戦略推進協議会、NEXTOKYO）

協 賛：独立行政法人都市再生機構

後 援：在福岡米国領事館、国土交通省、九州地方整備局、福岡県、一般社団法人九州経済連合会
福岡商工会議所、株式会社日本政策投資銀行

当日参加人数：約400名

〈事務局〉

福岡市住宅都市局九大跡地計画課

電話：092-711-4154 FAX：092-733-5011

〈運営事務局〉

株式会社日本旅行 九州法人支店 Global MICEセンター

電話：092-451-0606 FAX：092-451-0550

フォーラムのねらい

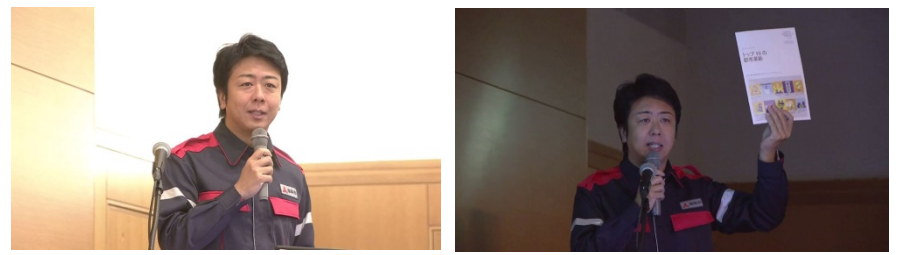
九州大学箱崎キャンパス跡地は、陸海空と交通の便が非常に良く、約50haという広大なエリアで一体的なまちづくりができる地域。箱崎キャンパス跡地の次世代のまちづくりについて議論を深めるため、FUKUOKA Smart EAST のキックオフとして、「FUKUOKA NEXT都市革新フォーラム」を開催した。

九州大学総長 久保 千春氏



九州大学箱崎キャンパス跡地の計画については九州大学共進化社会システム創成拠点を活用し、箱崎キャンパス100年の歴史を継承し、次の100年に向けて地域そして福岡市と連携して行っていきたい、と挨拶を行った。

福岡市長 高島 宗一郎氏



FUKUOKA Smart EAST について、九州大学箱崎キャンパス跡地のポテンシャルを活かして、先進的なまちづくりを目指すためには、「シェアリングエコノミー」・「テクノロジー」がキーワードで、規制緩和も必要になってくる。このプロジェクトを通して、個人の幸せを最大化して、グローバルな社会課題へ示唆を与えるような、まちづくりに取り組んでいきたい、と挨拶を行った。

第1部：基調講演『福岡型都市革新の展望について』 (9:40~10:20)

講師：森 俊子氏(ハーバード大学大学院 教授)



世界経済フォーラム「トップ10の都市革新」の紹介の後、

- ・福岡市は10個の内すでに8個の都市革新はできていると考えている。
- ・福岡市は日本の地域都市として見るのではなく、東アジアの中心としてみるべき。
- ・航空写真で見たら、中洲はフランスのパリと似ており他都市のように水辺の使い方が重要である。
- ・福岡市、そして箱崎キャンパス跡地には大きな可能性があり、新しいことにも取り組んでいける。

などと説き、伝統文化・良い遺産も今後残して欲しいなど、グローバルな視点から福岡・箱崎への期待と展望を講演した。

第2部：パネルディスカッション『都市革新とライフスタイル』～国際都市として成長していくために～ (10:40~11:50)

モデレーター：梅澤 高明氏(A.T.カーニー株式会社 日本法人会長)



パネリスト：楠本 修二郎氏(カフェ・カンパニー株式会社 代表取締役社長)
高島 宗一郎氏(福岡市長)
森 俊子氏(ハーバード大学大学院 教授)
安浦 寛人(九州大学 理事・副学長)

- ・九州大学の記憶と遺産の継承、人の新陳代謝があるまちづくり。
- ・トップ10の都市革新の実践。
- ・マネジメントの力、シェアリングエコノミーへの取組について。
- ・住む人が幸せになることが第一。高齢化も進む中、テクノロジーを活かして、個人の幸せと社会の持続性を両立させる。
- ・周囲の地域と、過去とのつながりを大切に。
- ・多様性、福岡の人の気質と歴史、女性の力を活かしていく。
- ・ハードよりもソフトが大事。全ての世代、属性の方が集まり、交流していくようなまちづくりを。

などについて各パネリストが意見を交わし、午後の分科会への期待も語った。

第3部：学生ワークショップより提案 (13:00~14:00)

モデレーター：是久 洋一氏(九州大学共進化社会システム創成拠点 拠点長) 発表者：Sukhwan CHOI氏、堀氏、Ziwei SONG氏、川上氏
坂井 猛氏(九州大学大学院 教授)
森 俊子氏(ハーバード大学大学院 教授)



- ・博多織を用いて、個人とコミュニティを繋ぎ、そして過去と未来の間での会話を促進するような「博多織の街並み」の提案
- ・「そうつく」の提案。意図していない触れ合い、すれ違い、出会い、たまには急に変わる天気のような、偶然とも交わりながら予想できない新たなコンビネーション。ここから生まれる創造的なスタートアップ・ビジネスという産業、もしくはファッション、音楽、食べ物、建築といった文化が福岡が持っているポテンシャルを引き出す。
- ・「アート」を「水」を箱崎で組み合わせることによって、数珠つなぎの一部として箱崎を位置付ける、という提案。
- ・祭りを繋ぐまちづくりの提案。既にある祭りが場所や時期がバラバラであることからそれを繋げる。伝統的な祭りや現代的な祭りをも繋げる。祭りの準備の可視化や、祭りの施設・資料館も念頭に置く。

など、それぞれ独自の視点で、箱崎跡地に関する学生提案を紹介した。

第4部：分科会1（14：10～15：10）

1-A 『多様性と国際都市』～アジアの交流拠点都市としてのまちづくり～

パネリスト：今村 正治氏(立命館アジア太平洋大学 副学長)
楠本 修二郎氏(カフェ・カンパニー株式会社 代表取締役社長)
伏谷 博之氏(タイムアウト東京株式会社 代表取締役)
モデレーター：姜 益俊氏(九州大学留学生センター 准教授)



- ・九州の他の地域をより知り、連携していく必要。
- ・留学生の活用。九州での就職は少なく、選択肢も少ない。留学生、優秀な人に残っていただくためにも、さらに国際化を。
- ・異なるものをリスペクトし、多様なバックグラウンドの人を「まぜる」。
- ・箱崎の「昭和比率」を下げる（年齢という意味ではない）。
- ・食、ウェルネスの中心となる学びや仕掛けをぜひ箱崎に。

など中心に様々な意見・提案が出され議論を行った。

1-B 『技術革新とモビリティ』～FUKUOKA Smart EAST でみんなの移動はどう変わるのか？～

パネリスト：坪谷 寿一氏(株式会社ドコモ・バイクシェア 代表取締役社長)
中島 宏氏(株式会社ディー・エヌ・エーオートモティブ事業部 執行役員・部長)
中村 文彦氏(横浜国立大学 理事・副学長)
山田 和晴氏
(総務省情報通信国際戦略局 技術政策課オリンピック・パラリンピック
技術革新研究官)
モデレーター：安浦 寛人氏(九州大学 理事・副学長)



- ・モビリティとは車などの道具ではなく移動の可能性、移動のしやすさの概念。人の移動がどう変わるか、ではなくどう変えるかという視点が大切。
- ・箱崎では、自動運転や シェアリングといったツールについて、データをとり、実地に即したPDCA のショーケースとして、制度設計を含めた提案のために研究開発を実証していくことができる。
- ・新しい技術による新しいリスクに対して、制度や保険を対応させる必要がある。
- ・技術のイノベーション、制度のイノベーションの先に価値観のイノベーションがある。それをどうつなげていくか、どう仕掛けるか。難しいが大切なところ。

など中心に様々な意見・提案が出され議論を行った。

第5部：分科会2（15：20～16：20）

2-A 『リビングラボ』～イノベーションを生み出す実験都市・福岡～

パネリスト：小笠原 治氏(株式会社ABBALab 代表取締役、さくらインターネット株式会社 フェロー、京都造形芸術大学 顧問)
是久 洋一氏(九州大学共進化社会システム創成拠点 拠点長)
紺野 登氏(多摩大学大学院 教授)
モデレーター：石丸 修平氏(福岡地域戦略推進協議会 事務局長)



- ・リビングラボ、社会実験という形で、まち、あるいはさまざまな社会課題を解決していくような仕組みを少し箱崎で担保してみてもどうか。仕組みは、がっちり固めるようなものではなく、アップデート、住民や近隣の方との合意形成もしていけるようなかたちで。緩さも大切で、いかに住民や多様な人を巻き込んでいくか。
- ・世界にない、世界一の何かをする、という精神、浮かれ具合をもちつつ、やるべきことをやる。
- ・今後住民になる方を想定したコミュニケーションが大切。
- ・いったんゼロベースで考えて、ルールを作っていく。

など中心に様々な意見・提案が出され議論を行った。

2-B 『コンパクトシティ』～リバブルシティ(Livable City)に描く、まちのグランドデザイン～

パネリスト：小林 英嗣氏(北海道大学名誉教授、日本都市計画家協会会長)
齋藤 貴弘氏(弁護士)
重松 大輔氏(株式会社スペースマーケット 代表取締役)
森 俊子氏(ハーバード大学大学院 教授)
モデレーター：坂井 猛氏(九州大学大学院 教授)



- ・コンパクトに進むための共有型の都市のかたちを探る必要、シェアリングエコノミーは急速に拡大している。空間と時間のシェア、使用されていないところを共有する。共にゲスト、ホスト、行政と一緒に考えていく、やっていくという関係性が非常に大事。他国との情報交換をぜひ。
- ・エリアマネジメントの団体について、企業として成立する体制の組織を前提に。資金調達も含めた運営のやり方が大事。
- ・エネルギーインフラの導入も検討を。小分けにすればよい方法があるかもしれない。

など中心に様々な意見・提案が出され議論を行った。

第6部：クロージングセッション 『福岡型都市革新に向けて』（16：30～17：30）

モデレーター：安浦 寛人(九州大学 理事・副学長)

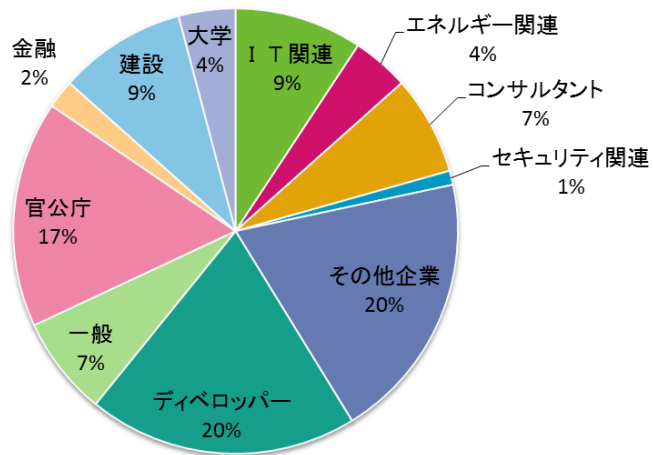


パネリスト：石丸 修平氏(福岡地域戦略推進協議会 事務局長)
梅澤 高明氏(A.T.カーニー株式会社 日本法人会長)
楠本 修二郎氏(カフェ・カンパニー株式会社 代表取締役社長)
森 俊子氏(ハーバード大学大学院 教授)

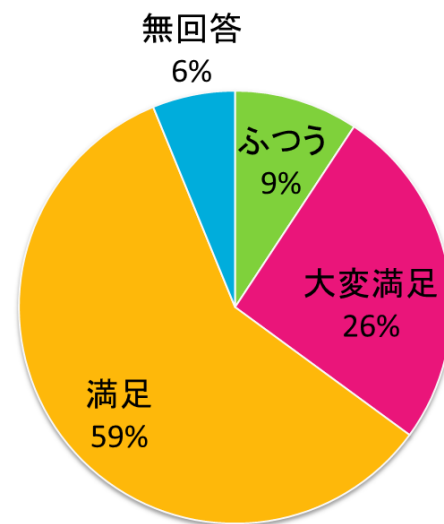
- ・AIの導入を想定した規制緩和、クリエイティブ移民受入の可能性。
- ・リビングラボ、プラットフォームの導入については、大きな目的と、まちの骨格の定義の上が望ましい。
- ・多様な人を意志決定の場に参画いただき、アイデアを掛け合わせるという仕組みが大切。一方、全ての幸せのために、みんなで参加して決める、ということは美しいが、結局のところ、声の大きい人の意見が通るだけではないだろうか、という意見もあった。
- ・シェアリングは今後重要。広い範囲で選択がたくさんできるかが成功の鍵。学びのシェアもぜひ。

など中心に議論を行い、モデレータの安浦九州大学理事・副学長は、価値観のイノベーションを一度思い切った仮説に立って議論し直す必要がある。まちづくりのスケジュールに合わせ、今日の意見を踏まえながら活かせるものは、活かしていくようにしたい、と締めくくった。

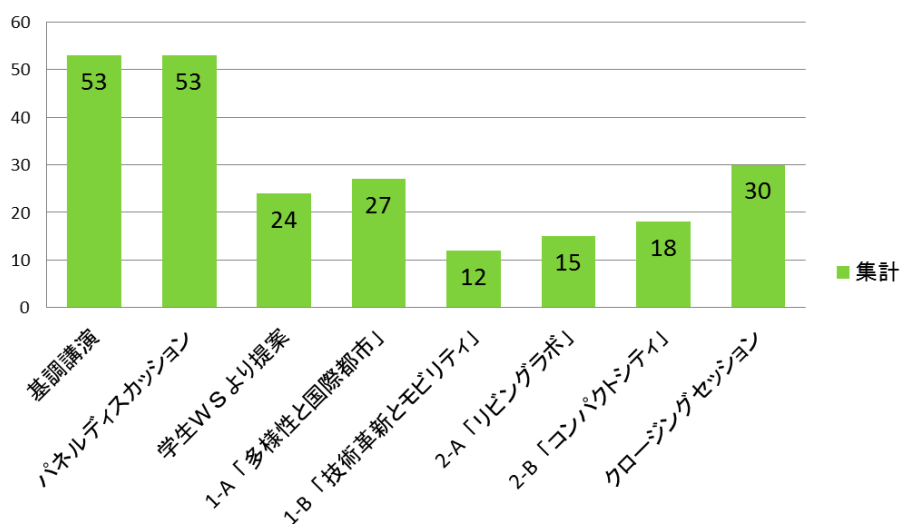
参加者所属



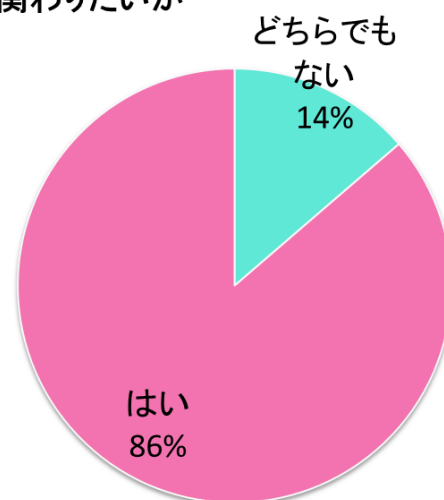
評価



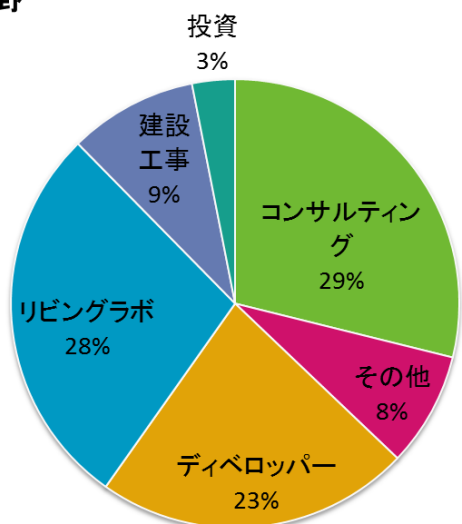
良かったプログラム



まちづくりに関わりたいか



関わりたい分野



アンケート集計② ※各質問に関する主な回答

Q. フォーラムの中で、心に残ったキーワードをお書き下さい

- ・多様性、ニーズの発掘、持続可能性
- ・多様性、シェアリングエコノミー
- ・シェアリング、エネルギー地産地消、九州独立
- ・開けたまちづくり、個性あるまちづくり、起業の聖地づくり
- ・東アジアの中心都市、中洲とパリ、未使用空間の開放
- ・どんなまちを作りたいのかモビリティ等は手段、技術が目的ではない社会への実装か
- ・心のコンパクトシティ、住民、共創
- ・15才～29才若年層が最も多い地、高齢化は都市部でも一気に
- ・多様性をまぜる・かけあわせる、留学生とともに成長、特区中の特区、スーパーヒューマン
- ・交流、mobility、利他的
- ・多様性、そこに住む人が幸せになる街、ハードでなくソフトが大切

Q. フォーラムのご感想やご意見をご自由にお書き下さい

- ・「留学生は移民とインバウンドの中間」という今村氏のコメントに強く共感しました。
- ・非常に良い内容で考えさせるものであった。ぜひ今後の参考にしたい。
- ・実際の事業と本日のフォーラムの内容がどう結びつくのかいまいち理解できない。
単に跡地を売却するのに色々な理想がくっつきすぎているのではないか？
- ・福岡市としての未来都市への試験的な場所（実験）としての位置付けと九州大学が100年地元と育んできたコミュニティの在り方との接点をもっと模索しなければ孤立してしまいます。せつかく育まれてきた受け入れ育てる地域の文化（1つの）をもっと利用すべき
- ・まさに日本をリードする方々の講演が興味深かったです。
- ・あらためてダイバーシティ都市福岡のポテンシャルを再認識しました。九州ひとづくりで世界にうち出すというのはなるほど！福岡都市圏に住む者として、ぜひ福岡市内のゆくすえにのっけてもらえればと考えております。
- ・ベースとして博多の伝統、日本の伝統、日本人のDNA等（例えば外国文化を取り入れて良いものにつくっていく精神）を大切にすまちづくりをお願いしたい。
- ・ぜひ議論を進展させた2個目の開催を。ぜひ住民入れた地元にて。

Q. 今回のフォーラムを受けて、箱崎キャンパス跡地のまちづくりについて、どのような期待をされますか

また、課題と思われるものがあれば、教えて下さい。

- ・良い街にしたいとの思いは皆共通だと思うが、コスト負担をどこが負うのかが問題になると思う。
- ・留学生と共存している現在の箱崎を維持するため、キャンパス移転後も外国人を箱崎にとどめておく工夫が求められる。
- ・地元だけでなく、今回のような域外の方をどんどん巻き込んだ進め方をしていてもらいたい。
- ・世界でもとがったものを特区で作るとして50haの中だけで快適では不便だし、街として連続性から周囲とのバランスをどう取るか。
- ・区画を定めて企業乗積場所を設けイノベーションの発信基地としてアジア各国からの優秀な人材で企業を育てる。
10,000坪、200社程度の規模
- ・やっとな本格的に始動した感じです。理想と現実にあまりに距離があるのと、結局はただの箱物となり、ソフト（今回重要なキーワード）は追いつかないばかりか、ちぐはぐで再構築が困難になる。進めて行く側はよりソフトに敏感で真摯に町側はもっと知る事に努力しなくてはならないので、出来る限り地元で 発信（これからの動きも含め）していきたい。
（追記）地元としては箱崎の住民というより、福岡市のための跡地活用の位置づけを認識しました。
ただこれからの福岡の為に「なんでも受け入れてきた箱崎」は良い場所かもしれません。
- ・日本だけでなく、世界から注目されるまちづくりをしてもらえると期待すると共に関わりたい。自転車中心のまちづくりを希望。
- ・購入先がエリアマネジメントの能力があるのか？九大跡地全体の文化財としての値打ちを知っていること。
時代におくれた負の遺産にならないようにという言葉が印象的でした。
- ・リビングラボは企業の開発研究に市民を動員するだけだったら市民の協力が得られるのか疑問で、生活者側から社会や生活をより良くするしくみとして起こすことができないと、企業の議論にふり回されるだけとなるので、事業性が必要だと思う。